

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 3

令和5年9月26日

西部農林水産振興センター益田農業部

標 題	失敗は繰り返さない！ カルテで改善、益田地域の水田園芸キャベツ
-----	---------------------------------

(ダイジェスト)

水田園芸キャベツの収量向上のため、本年度は収量構成要素の再検討と細やかな技術指導、その記録をカルテに蓄積する活動を展開しており、例年より順調な生育となっています。目標収量達成を目指して、引き続き的確な普及活動を継続していきます。

本年度で推進3年目を迎える集落営農キャベツは、年々生産性が向上しているものの目標収量の5.5t/10aに達していません。生産者からも「収益性が低く何とかせねば」との声が上がっています。

そこで本年度は、収量を構成する植栽密度、玉重、収穫率の3つの要素を改めて見直し、それぞれに目標を設定して一つずつクリアするきめ細やかな技術指導を行っています。具体的には、使用するトラクターのサイズから各ほ場で作成できる最大畝数を提案、加工用玉重の引き上げに伴う最適植栽密度の補正、高温期の8月上旬定植後の株生存率向上対策の提案などです。

管内では主に中山間地域で生産されるため、確実に収穫するための限界は、気温の低下を考慮すると年内となり、生育量の確保には高温下の8月上旬定植が必要です。そのため、定植後の管理が最も大きなポイントとなります。これまでのところ、定植後に根朽病の発生が見られたものの発生確認後の早めの薬剤処理で拡大を防止でき、最大の山場を無事越えています。9月以降は、除草剤や機械除草による雑草発生抑制で、順調な生育となっています。



【吉賀町 A 法人のキャベツほ場 9/21 現在】

これから迎える結球時期が玉重を確保するための第二弾の重要なポイントとなります。毎年発生する問題や課題への対応をカルテに蓄積することで、生産者にあった処方（指導）を施し、安定した生産量が確保できるような的確な普及活動を継続していきます。